

兵庫県立長田商業高等学校 令和6年度 学校関係者評価 報告書

スクールミ ッション	神撫商業学燈の理念のもと、自ら考え、自ら学び、商業の専門性を有するとともに、起業家精神をもち、社会の創造と発展に貢献する資質を備え、産業社会で主体的に行動し、地域社会や世界の発展に貢献できる人材を育成する。
スクールボリ ン 育成を目指 す資質・能力 に関する方 針	(1)「誠意の卓越した人となること」を掲げ、他人を思いやる心を養い、自ら主体的に学び、考え行動する生徒を育成する。 (2)「常識の卓越した人となること」を掲げ、規範意識を育み、他者と協調して社会の変化に柔軟に対応できる生徒を育成する。 (3)「技能の卓越した人となること」を掲げ、情報活用能力やビジネスに関する専門性を備えた生徒を育成する。

回答方法 4. 非常によくあてはまる 3. おおむねあてはまる 2. あまりあてはまらない 1. あてはまらない

評価の 観点	評価項目	番号	実践目標	平均	平均 (R5)	4・3の 割合	学校の取組状況・改善の方策	評価項目ごとの学校関係者評価
学校運 営	学校組織の活性化	1	各部・学年が教育目標及び重点目標の下、PDCAサイクルによる改善をはかりながら協働的・組織的な取組を行っている。	2.94	3.11	82%	スクールミッションにあるような社会に貢献できる人材を社会に送り出す仕掛けづくりなど、工夫が必要である。	
	保護者や地域と ともにある学校づ くり	2	ホームページの更新や中学校訪問等により、本校の情報や魅力等を発信し関心と理解が深まるよう努めている。	3.35	3.61	94%	SNSを通じて、学校の様子や行事については発信できていると思うが、本校の売りや強みなどがまだまだ出せていないのが現状がある。	・学校と株式会社NAGAZONのつながりが見えにくく、もっとPRしていく必要がある。
		3	学校行事等を通じて保護者や地域と連携して、生徒・保護者・教員・地域が教育活動を通して互いに信頼できる関係づくりを推進している。	3.06	2.94	82%	地域とはこの数年で連携が強くなった。 学校参観日を設ける。重ねて、三者面談も設けられたら、授業の延長で話しやすいのではないかと思う。	・AIや生活様式の変化で人と人の繋がり希薄化が進んでいる中で生徒の生きる力を育むには学校と地域が積極的に連携していく必要がある。
	商業高校としての 魅力づくり	4	商業科としての魅力を生かし、生徒の特性に合わせながら多様な商業科目に主体的に取り組ませている。	3.18	3.56	94%	地域創造は、商業科目ではないが、(株)NAGAZONの実質活動科目となっている。そのうえで、来年度から、商業科ではなく、全学年が創造ビジネス科となるのでその魅力が引き出せるような工夫が必要となる。	・保護者の学校評価にも「普通の学校では体験できない」「社会に出てから役に立つ体験」と記載があるなど高く評価されていると思う。
	働きやすい職場 環境づくり	5	教職員の勤務時間の適正化に向けた取組を行い、教職員の健康に配慮した校内体制を構築している。	3.47	3.44	94%	全職員が定時退勤をほぼできているが、今後もワークライフバランスを常に考えて伝えていく必要がある。	
教職員 資質向 上	校内研修による 教職員の資質向 上	6	生徒指導に活かすため、学校の課題に沿った校内研修を充実させている。	3.53	3.56	88%	学校を取り巻く環境が、ここ数年で大きく変化したが、価値観の多様化や生徒の個性尊重を重視する中で、教員としての資質と実践的指導力の向上につながるような研修を実施する必要がある。	
	授業実践力の向 上	7	公開授業週間を年2回実施し、互見授業を積極的に実施するなど、教員の授業力の向上を図っている。	3.47	3.17	100%	授業見学後の前向きなフィードバックがあったり、模擬授業をするのも授業力の向上に役立つ。 今後保護者等にも見ていただけるような公開授業週間の取り組みを模索したい。	
		8	ICTを活用した授業、教科横断的な指導、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善が図られている。	3.24	3.33	82%	教科横断的な指導は「地域創造」できている。 幅広い内容で、ICTを活用した授業に向けた研修があればありがたい。	
生徒指 導	生徒の内面的理 解	9	個人面談の実施や声かけにより、保護者と綿密な連携を図り、必要であれば家庭訪問を行っている。	3.18	3.50	94%	生徒個々の特性・環境を配慮し、生徒・保護者に向けて細やかな言葉遣い・態度を工夫していく必要がある。	・生徒に寄り添った指導・支援ができている。
		10	生徒情報交換会・ケース会議等で生徒に係る情報を職員が共有し、生徒の内面的理解や生徒の状況把握に努めている。	3.59	3.67	94%	ケース会議は、配慮の必要な生徒の支援において、教育効果があつた。問題行動があつたときや、長欠の生徒の詳細な情報についての職員での共有が必要である。	・小中学校でつまずいた生徒が高校で頑張って登校できていることは大きな成果である。
		11	発達障害やLGBTQ、日本語教育の必要な生徒等多様な個性・ニーズに合わせた教育活動を推進している。また、必要に応じて合理的配慮を行っている。	3.24	3.28	88%	LGBTや日本語教育(多文化共生等)は人権教育でもビデオやHRなどで扱ってきたが、インクルーシブ教育については、今後一層注力して行かねばならない。	
	基本的生活習慣 等規範意識の醸 成	12	あいさつ・言葉遣い・時間を守るなどの基本的な生活習慣を身につけさせている。	2.29	2.61	35%	マナーについては、授業や株式会社の活動などで、身につくように取り組んでいるが、このことが、生きていく上で自分にとって大切なことであることに早く気づくようにより一層の工夫が必要である。	・以前に比べると挨拶よくできていると思う。
	教育相談の充実	13	多様化する生徒に対応するため、キャンパスカウンセラーによる教育相談を充実させている。	3.53	3.39	94%	カウンセリング体験を行うなど、教育相談の機会は充実している。	
	健やかな体と豊 かなこころの育成	14	生徒の自己肯定感・自己有用感を高めるとともに、生徒と教員の信頼関係にもとづいた適切な指導を行っている。	2.94	3.28	76%	チーム担任制によりそれぞれの責任感や生徒との密な関係性が希薄にならないように努める。	・生徒一人ひとりに対する手厚い指導やかかわりによって自己肯定感を高めることにつながっている。
		15	生徒指導講演会や保健講話等を実施して、健全な生活を送るために必要な資質を養っている。	3.41	3.33	94%	色々な分野の内容を取り入れて、生徒が選択できるため、前向きに取り組むことができた。	

評価の観点	評価項目	番号	実践目標	平均	平均(R5)	4・3の割合	学校の取組状況・改善の方策	評価項目ごとの学校関係者評価
進路指導	生徒・保護者に対する進路情報提供の充実	16	進路ガイダンスやインターンシップ等を活用して、系統的・継続的なキャリア教育の充実に努めている。	3.06	2.78	88%	一度のガイダンスだけでなく定期的に進路の話をする機会が必要であり、進路情報について1・2年生から系統立てたアプローチが必要である。	
		17	「進路のしおり」を作成し、進路指導の充実を図っている。	3.06	2.72	82%	「進路のしおり」を活用する機会がほとんどないため、タイムリーに活用し、進路を考える機会を設ける必要がある。	
	進路に対する個別指導の充実と進路実現	18	生徒一人一人の進路希望や特徴を把握し、長所を生かした進路実現に向けての指導を行っている。	2.82	3.39	76%	個別に対応ができているが、組織的な取り組みをしていく必要性を感じる。	・株式会社NAGAZON経営目標は、進路実現に結びつくことを更に明確にできたい。
生徒の学び	確かな学力の育成	19	基礎的・基本的知識・技能の定着を図る指導がなされ、生徒の学習意欲が高まっている。	3.29	3.11	88%	数学・英語において学び直しやPCの活用スキルのカリキュラムを0校時に組んでいる。	・職員は去年よりも向上したと意識しているが、生徒・保護者は低下したと意識している。引き続き細かな指導をお願いしたい。
	カリキュラムマネジメント	20	社会や地域との接点を持ちつつ、生徒が未来を切り拓く力を身に付けるように教育課程の改善を図っている。	3.29	3.22	88%	(株)NAGAZONの取り組みは社会性向上に役立っている。	
	生徒の学習状況に応じた学びの体制の確立	21	生徒の状況を適切に把握した上で、習熟度別授業や少人数授業を適切に実施し、個に応じた学習指導を行っている。	3.24	3.22	94%	日本語指導が必要な生徒が在籍している場合に、習熟度別や少人数授業を適切に実施する工夫が必要である。	・生徒の出席状況や習熟度に差があるので、今後もより一層生徒に寄り添った指導をお願いしたい。
	外部人材の活用	22	外部からの講師を積極的かつ有効に活用し、生徒に幅広い学びの場を提供している。	3.35	3.44	94%	特別非常勤講師やひょうごの達人招聘事業を活用している。	
特別活動	学校行事の充実	23	生徒会を中心とした校内活動を充実させることで、自尊感情や社会とのつながり意識を高揚させている。	3.65	3.39	100%	生徒会の活動規模が大きくなり、自主的で前向きな取組になった。	・生徒が外へ出て行く経験をして、他の生徒へフィードバックしていく必要がある。生徒が他の生徒をひっぱっていることが伝わるようにしてください。
	人権教育・多文化共生教育の推進	24	人権映画鑑賞会等を実施し、生徒の人権感覚の涵養に努めている。	3.29	3.17	94%	毎年、テーマについては、在学中(4年間)に同じテーマにならないよう配慮している。	
		25	人権教育LHRを計画的に実施し、自他を肯定する態度と共生社会実現への実践力を高めている。	3.24	3.06	94%	社会に出たときに必要な人権スキルを身につけることができるようにテーマ設定を行っている。	
	学校の特色化・個性化	26	NAGAZON経営の実践的・探究的な学びを通して、主体的に学び考え行動を促す指導を行うとともに、地域に対する愛着心・貢献意識を高めている。	3.12	3.44	82%	非常に活発に動いている。生徒の主体性や責任感が養われている。	・NAGAZONの取り組みは特色として定着してきている。 ・NAGAZONの取り組みは検定取得だけに頼らない実践的な教育につながっている。
危機管理体制	教職員の防災教育に係る指導力実践力の向上	27	学校防災マニュアルを実情に応じて適宜見直し、家庭・地域等と連携した危機管理体制を構築している。	3.41	3.17	88%	学校防災マニュアルが毎年、学校・生徒の実態に合わせて更新されている。	・防災訓練の工夫をお願いします(緊急時の連携や3校連携も視野に入れる)。
		28	防災訓練等の実施により生徒の防災意識を高め、生徒自身が災害時に適切に判断し、主体的に行動する力を育成している。	3.53	3.00	100%	防災訓練に工夫があり、実際に災害が発生したことを想定できる。	・防災訓練での起震車での体験などよく工夫されている。
	安全な学校づくり	29	救急救命講習の実施等、いかなる時にもまず人命を守るといふ、教職員の意識と技術を高めている。	3.47	3.44	94%	AED講習を毎年実施している。	
	生徒の安心・安全	30	いじめアンケートを実施し、生徒のいじめ防止や自殺予防に向けた職員研修に取り組み、速やかな情報共有と対応に努めている。	3.35	3.67	88%	研修やアンケートが充実している。ただし、生徒事業対応は難しいので、随時相談できる外部機関(人材)と連携していきたい。	
	情報モラルの育成	31	SNSに係るトラブルについて授業や講演会等あらゆる機会を通して、情報モラルの向上を図っている。	3.00	3.39	71%	授業(情報)や学校行事等において、考えさせている。	・SNS等での誹謗中傷はあるのか。もしある場合はどのような対応をしているのか。
不登校対策	チーム担任制導入	32	生徒が相談しやすい教員を選択でき、悩みを相談しやすくすることで、学校への安心感につながり、楽しい学校生活を送れている。	3.24		94%	導入初年度で、毎日が改善の連続であった。	・生徒を複数の先生で多角的に見ることができ高く評価できる。情報の共有を密にし、生徒との信頼関係の構築につなげてほしい。
	中間考査の廃止	33	中間考査の廃止により、時間的余裕が生まれ、生徒がわかる授業に向けて、改善に取り組んでいる。	3.12		76%		・中間考査の廃止によって精神的な負担軽減になっているのは良い。
	生徒面談日の設定	34	複数回の面談日を設けることで、必要なタイミングで生徒への支援を早期から実施できる。	3.53		100%	面談日があることで一息付ける生徒が多いと思う 販売実習などイベントが多くなっているので生徒のストレスを緩和するために有効な手段と思う。	・生徒・保護者の評価で差異がないのか注視していく必要がある。
	登校日の設定	35	夏休みに複数回の登校日が設定されたことで、生徒の生活のリズムが比較的維持できた。	3.00		71%		